

2018. 3. 23 17:30-19:00 拡大物性委員会 議事・発言録

東京理科大学野田キャンパス K203 会場

参加者数：69 人

(各議事のかっこ内の時間は当初予定)

議事 (予定) (敬称略) 進行：木村剛 記録：関山明

進行の木村先生より会員情報更新のお願い等についてアナウンス

1. 開会の挨拶 清水克哉委員長から挨拶

事務局長から簡単に挨拶、進行・配布資料の簡単な紹介

2. 事務局からの報告 清水委員長 スライドで説明

・ 会員・会計報告

2017年12月現在、グループ数230、メンバー数1182名(未納者を含む)

会計(直近の半年間)報告、残高238,806円 承認いただいた。

・ Journal 問題(OA2020 署名について)

1. OA2020 に対して物性グループとしての関心表明署名

2. マスタープラン 2017 計画番号 150 についてのサポート表明

1 について賛同が得られたとして署名して送付、物性委員会の HP にも掲載

2 について、「マスタープランに対する物性グループの関わり方」を議論→幹事のなかでワーキンググループ(マスタープラン WG)を発足させて議論を継続の旨紹介

・ (協議事項) 次期事務局(2018.10-2021.9)について 規約のうち第8条、第9条を表示

委員長 網塚 浩(北大理・教授)

事務局長 河本 充司(北大理・教授)

事務局員 浅野 泰寛(北大工・准教授)

柳澤 達也(北大理・准教授)

吉田 紘行(北大理・准教授(4月より))

拍手で承認いただいた。

今回の物理学会に不参加の河本先生を除く上記の方々に簡単にご挨拶いただいた。

2. 各共同利用研究所からの報告

・ 東大物性研(現所長 瀧川仁先生) 配布資料あり スライドで説明

近況の詳細は配布書類にて。

1. 人事・次期執行部

H29.4 から現在確定分の所員人事についての紹介

所長：森初果先生(任期3年)、副所長：吉信淳先生

2. H30 年度共同利用・共同拠点研究プロジェクト予算

H29 年度比で 26%削減(全国の拠点でほぼ一律な削減)

運営経費は同レベルだが、大型施設の維持経費に影響

3. 共同利用の状況についてスライド1枚で簡単に紹介

4. 国際共同利用・共同研究拠点に向けて

H30年度予算案の紹介 当初よりも縮小

認定要件（4項目） 物性研として申請する方向（施設利用と国際共同研究の2本柱）

国内物性コミュニティの参加、テーマ提案も入れ国際展開のハブという構想

質疑：

藤井先生：認定されたら何年間とかあるのか？

A：中期計画期間内いっぱいと思われる。

・京大基研（早川尚男先生）配布資料あり＋スライドで説明

近況の詳細は配布書類にて。

1. 量子情報分野の創設と講師：森前智行氏の着任（2018年1月）

第5の分野（物性はそのうちの一つ）⇒強化予定

但し委員の推薦母体については変更なし

またシーリングで定員削減がある（既に1、さらに近々に2）

この夏に運営協議会委員、共同利用運営委員の選挙があるので上記事情の配慮をお願い

2. 基研研究会の申請が少なかったので2次募集（5月末締切、7月審査）を行う。

地域スクール・ワークショップの在り方 一般講師⇒発表を必要とする。

従来、素粒子分野が独占的に使ってきたが不健全。物性からも応募の呼びかけ

国際共同利用・共同研究拠点に応募の予定

質疑：特になし

・KEK物構研（山田先生）配布資料あり＋スライドで説明

近況の詳細は配布書類にて。

現状と今後の報告

KEKのなかでの位置づけやJ-PARC下のMLFディヴィジョンとの関係の紹介

H30年度から3年間の物構研執行部

所長：小杉信博先生、副所長：瀬戸秀紀先生、足立伸一先生 などの紹介

予算と運転時間：「PF予算はこの数年間、着実に減っている」 3000hの運転時間

→拡大物性委員会の支援をお願いしたい。

論文数・被引用数などのデータ紹介

（地方大学・私立大学も健闘している、但し先端的論文の数がSPring-8よりも少ない）

低速陽電子実験施設の紹介（表面構造研究で成果をあげている）

J-PARC（MLF中性子ビーム：あと2年で目標の1MWに到達できそう）の紹介

運営形態について指摘あり、中性子・ミューオンのラインについて紹介

構造生物学研究センター、物性研究センターの紹介

出口を見据えた国家プロジェクトや基礎研究等への参画と推進の意向
物構研の課題（将来計画、将来ビジョンの明確化）

PF, PF-AR の選択と集中（特色の追求） by 小杉次期所長

上記を実行した上で 3GeV 次期光源への積極的参画

MLF: 産業界等との人事交流（クロアポ）

質疑：

澤博先生（名大工）：選択と集中は物構研のこれまでの方向とは異なるように思えるが？

A：そういう面はある。

例えば課題採択の在り方はこれまでのやり方でよいのか、というところはある

3. 話題

3-1. LT29 進捗報告 永長直人先生（東大工）

- LT28 にて札幌開催が決定（既に報告済）
- 2020年8/15(土)-22(土) 8/15に市民公開講座(at 北大)を行うが、それも含めることとなった。
- 招致委員会→組織委員会とした。
細野秀雄先生（東工大）、田島節子先生（阪大）、森初果先生（東大物性研）、松尾由賀利先生（法政大理工）が新たに加わった。
- HP 開設 www.lt29.jp/invitation.html
- 日本物理学会：主催決定、応用物理学会：共催決定、
日本学術会議：主催申請中(2/26に面接審査)・4月に結果連絡
- JPS Conference Proceedings (2021年4月頃をめど) 課金なしで読める
- 今後の予定
2018年はそれほど忙しくないが2019年になると途端に忙しくなる模様
11月までに Web ページ開設

質疑：特になし

3-2. 学術会議からの報告 -第24期について- 第4号幹事：松尾由賀利先生（法政大理工）

スライドで紹介

2017.10～2020.9の体制(第24期)

会長：山極壽一先生（京大総長）

第三部（理学・工学）の委員会構成 部長：大野英男先生（東北大学）

分野別委員会の紹介 このなかで物理学委員会がある 松尾先生は副委員長

その下の分科会 物一（委員長：川村光先生(阪大理)、副委員長：五神真先生(東大)）

「物理教育研究」の分科会設置を検討

物一の活動予定：WG 主査は森初果先生

科学者委員会 科学研究・研究資金検討分科会

マスタープラン 2020 の策定を行うことを決定した (2018.11 公募要項、2019.2 公募開始)
質疑：特になし

3-3. マスタープラン WG からの報告と提案 WG 座長：播磨尚朝先生 (神戸大理)

スライドで紹介 (スライドは HP に掲載)

WG 発足の経緯と議論の紹介 物性委員長から WG を設けることが幹事会に提案され発足

WG メンバーの紹介、「マスタープラン」策定の段階から積極的に関わるべきという意見
但し、順位付けをするかどうかはまだ先の話

提案 1：会合開催「物性研究の大型将来計画について」(2018.9.13 終日、於阪大)

提案 2：中小の研究計画についても物性委員会の HP で紹介

但し紹介する計画は幹事会の承認を得るものとする

従来からある電子ジャーナル問題についても同様に扱う

WG の今後の活動：2019.3 のマスタープラン公募締切まで活動を継続

そこまでの活動状況を見て、常設の小委員会設置等について幹事会に提言し解散
(背景の説明) 学術会議と物性委員会の関係の変遷について

質疑：

瀧川先生：物性の範囲はどう設定するのか？ (境界がそもそもあいまい)

A：手を挙げていただいた方は基本的に歓迎。

瀧川先生：本来関係しているが手を挙げてこない方をどうするのか？

A：これから広報し、色々な方に声かけ等をお願いしたい。

鹿野豊先生 (東大先端研)：こういうことを開催することは良い事だと思うが、日程がすでに決められている。計画はあるがこの会合に参加できないという方はどうするのか？

A：日程については物理学会の翌日であれば都合がつく可能性は高いと判断した。代理含め検討
いただきたい。今の時点で日程調整ができないので先に日程を決めて早めに周知する方針にした。

鹿野先生：日程の都合が悪く不参加な計画に不利益のないような配慮が必要と思う。

石田先生 (府立大工)：幹事と事務局が交代の時期になる。こういった活動が継続できるように
配慮いただきたい

A：次期事務局もオブザーバーとして巻き込む形にしたい。

播磨先生：まずはフラットな立場での活動を開始したい (順位付け等はしない)。

鹿野先生：違う分野の提案が来た時の対応が「何でも歓迎」と「物性委員会で判断」は矛盾する
ように思えるが？

A：物性委員会の誰とも関係ない計画は「違う」と判断。

森初果先生より補足説明（主旨は「情報共有」）

提案1について、拍手で承認された

提案2についても拍手で承認された

播磨先生より補足説明：3年に一度こういうことをやっていれば良いかというところではない

4. その他

清水委員長から改めて会員情報更新のお願いをアナウンス URL (<http://bussei-group.org>)も紹介

4月以降に会費請求の予定

以上